



2021年2月期 第1四半期決算概要

2020年7月9日

ツインバード工業株式会社

証券コード：6897

第1四半期決算概要：前年同期比較



新型コロナ影響で2桁減収

売上高 前年同期比 \triangle **12%**

- 家電量販店市場：量販店の一部閉店による来客人数の減少、流通在庫の調整などで減収
- ポイントサービス市場・EC市場：巣ごもり需要が拡大し、全自動コーヒーマーカー等調理家電が好調

収益性が大幅改善

売上総利益率 前年同期比 **+5.8pt**

- 高収益商品の販売重点化や原価低減効果などで収益性が大幅改善し、粗利増益（前年同期比+9%）、営業損失額を圧縮（46百万円改善）

※年末年始商戦や新生活商戦における販売需要が最も多くなるため業績に季節変動があり、売上高及び利益は第4四半期に集中する傾向

手元預金確保・財務体質改善

現預金残高 前期末比 **+5.2億円**

自己資本比率 前期末比 **+1.9pt**

（前期末 54.6% から 当1Q末 56.5%に改善）

第1四半期 業績の概況

家電量販店の一部閉店や来客人数の減少、流通在庫の調整などで売上高は減収
 一方、高収益商品への販売重点化や原価低減効果で売上総利益は増益となり、営業損失を圧縮

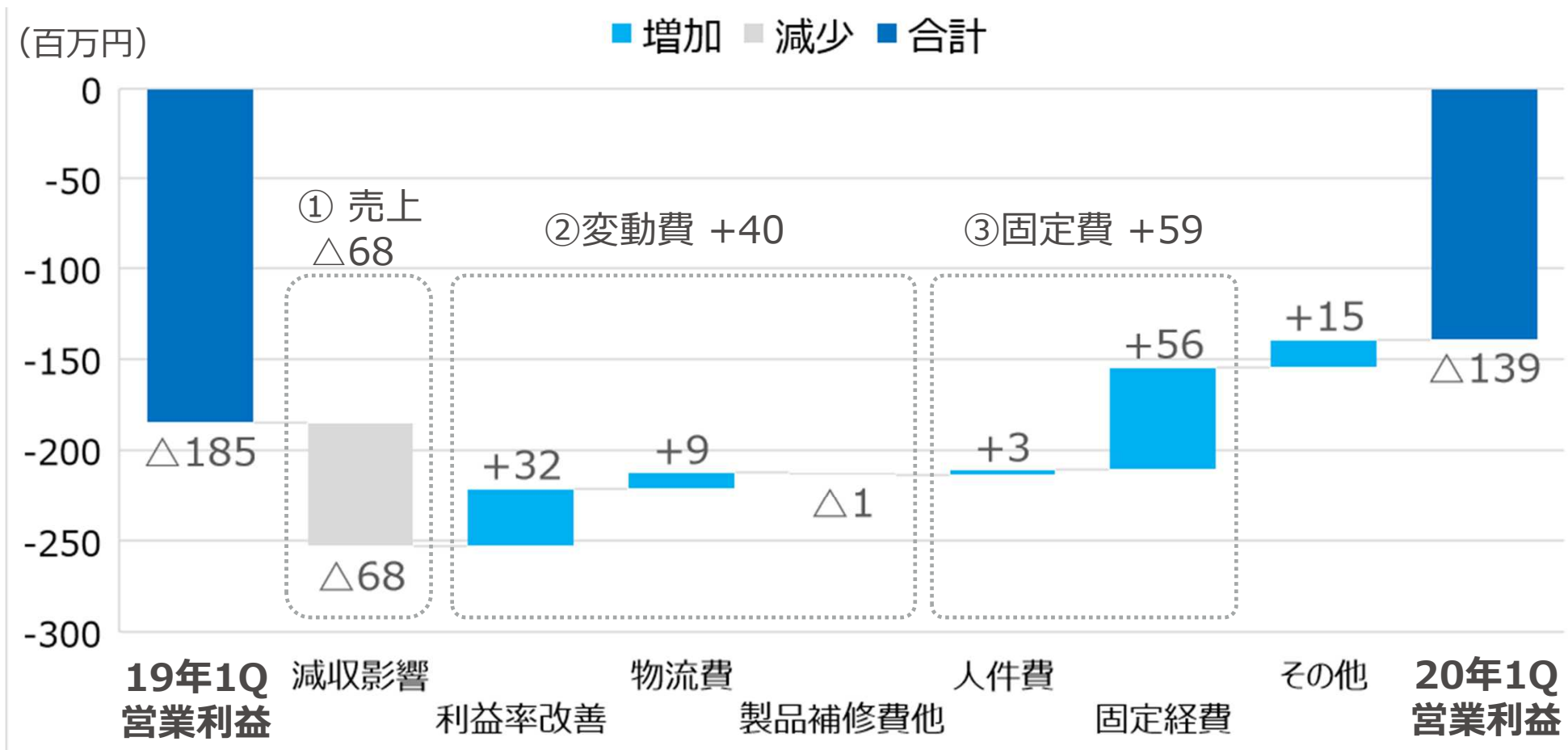
単位：百万円

(参考)

	2020年度	2019年度			2019年度	2020年度
	1 Q 実績	1 Q 実績	前年同期比 差額	成長率	通期 実績	通期 公表値
純売上高	2,315	2,626	△310	-11.8%	12,159	12,200
売上総利益	694	636	58	9.2%	3,505	
／純売上高比	30.0%	24.2%	5.8pt		28.8%	
販売費及び一般管理費	834	821	12	1.5%	3,326	
／純売上高比	36.0%	31.3%	4.7pt		27.4%	
営業利益又は営業損失 (△)	△ 139	△185	46	-	178	250
／純売上高比	-	-	-		1.5%	2.0%
経常利益又は経常損失 (△)	△ 182	△227	45	-	66	130
当期純利益又は当期純損失 (△) (親会社株主帰属分)	△ 137	△163	26	-	△133	60

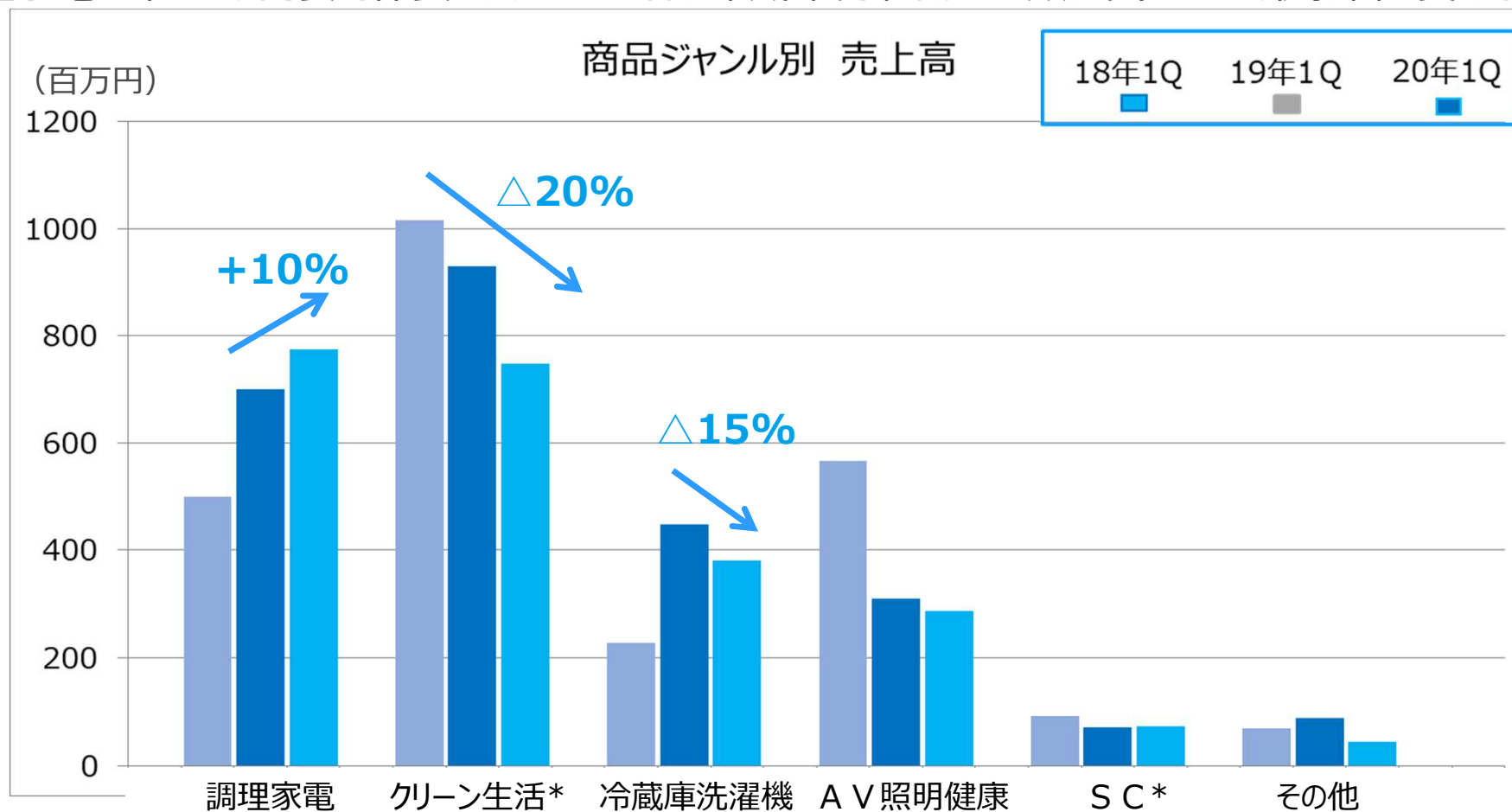
営業利益 前年同期比増減

売上高の減収の一方、高収益商品の販売重点化や原価低減効果などで売上総利益率（粗利率）が改善
減価償却費の減少や研究開発費、旅費交通費等の活動費を抑えて、固定経費が減少



商品ジャンル別 1 Q売上高

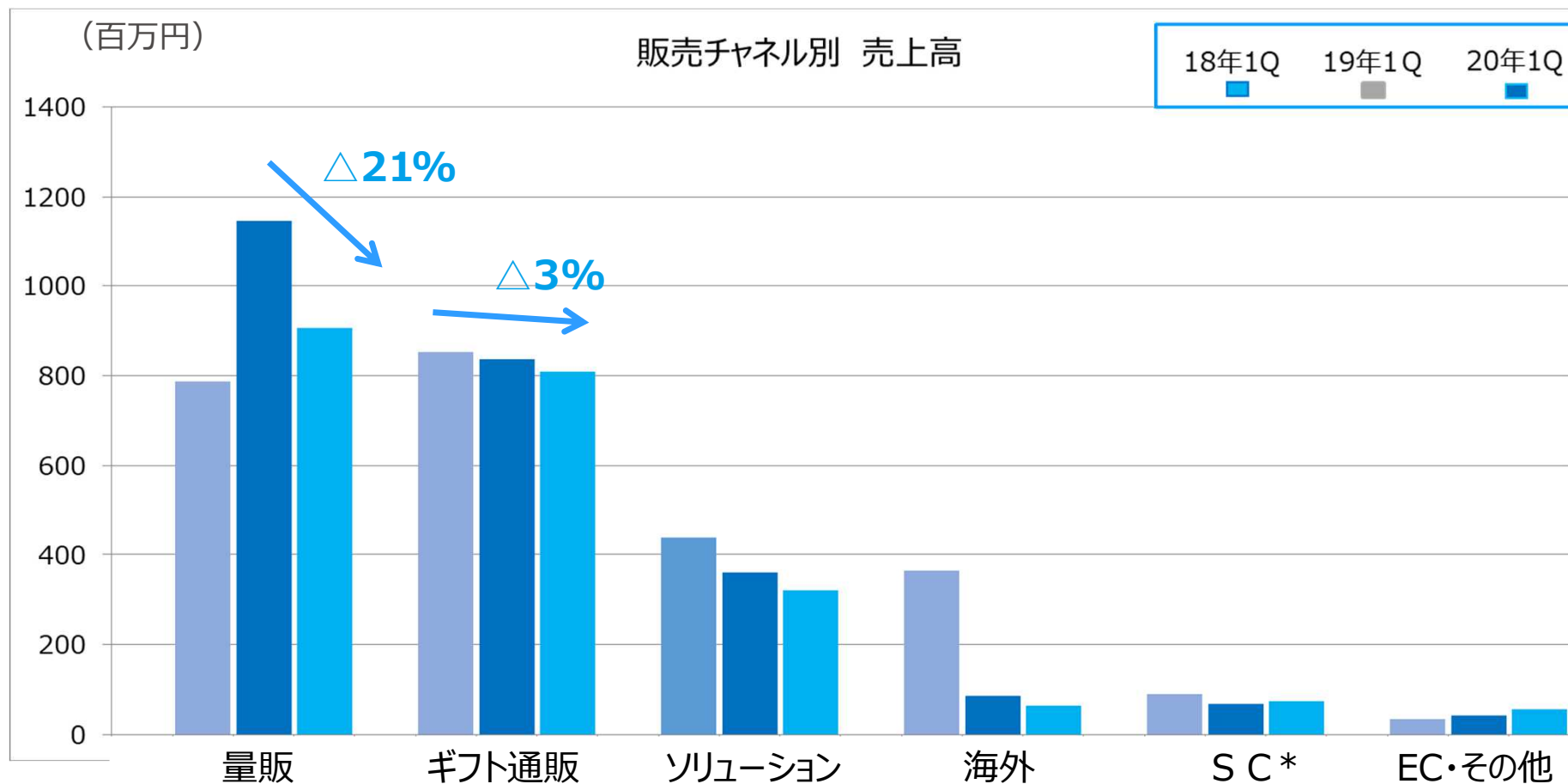
調理家電は巣ごもり需要で伸長 クリーン生活や冷蔵庫洗濯機は量販チャネルの減収影響を受ける



* クリーン生活：クリーナー、生活家電 S C：フリー・ピストン・スターリング・クーラー

販売チャネル別 1 Q売上高

量販店の一部店舗閉鎖や来客数減少の影響を受ける ギフト市場も減収だがポイントサービス市場は順調に拡大



*SC：フリー・ピストン・スターリング・クーラー

連結貸借対照表の概況

前4Q売上金額回収により、売上債権が減少 たな卸資産を圧縮し流動資産が効率化
事業環境リスクを考慮し十分な手元流動性を確保 総資産圧縮効果により有利子負債を圧縮

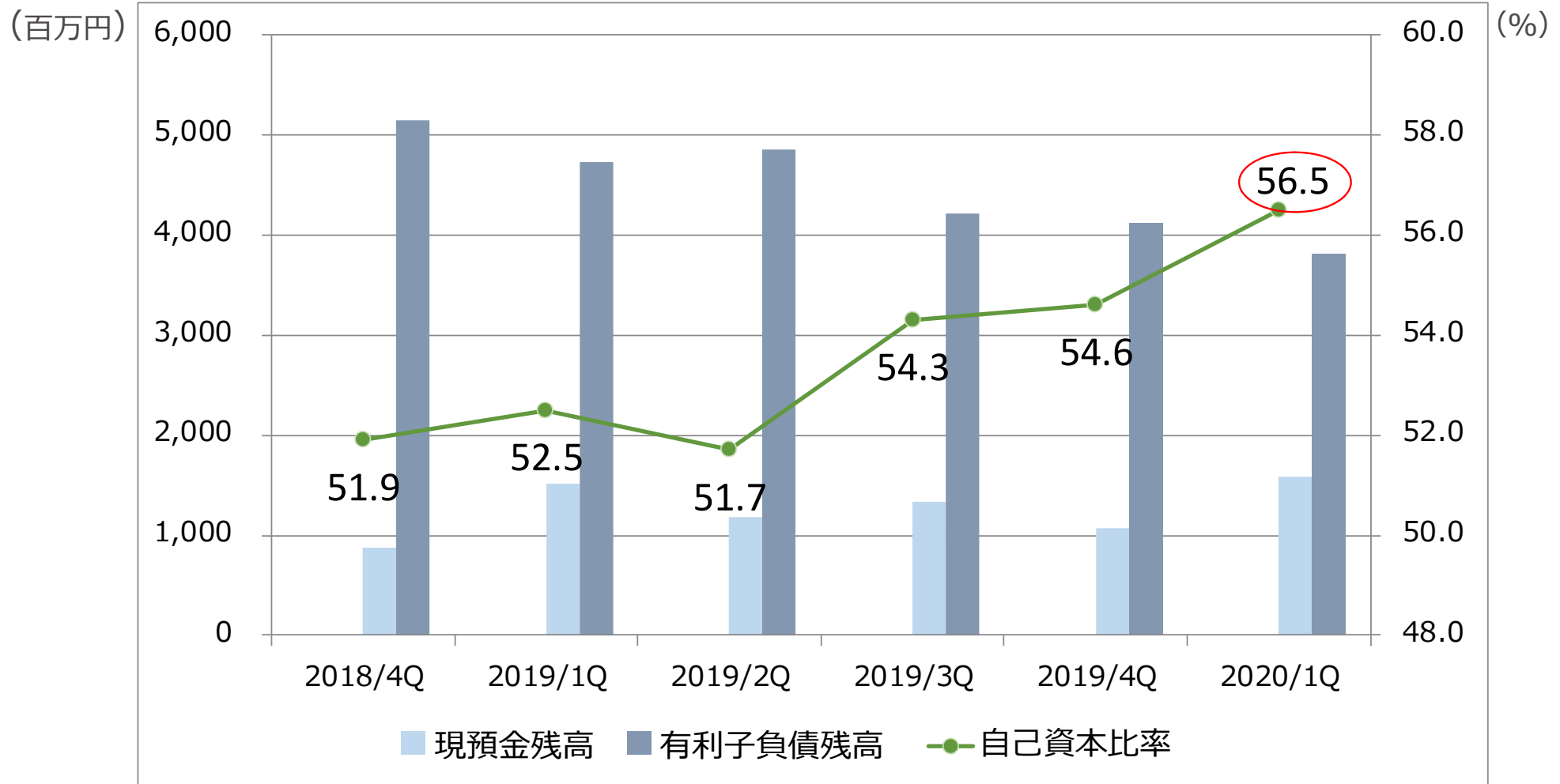
単位：百万円

	前期末	1Q末	増減
現預金	1,066	1,586	520
売上債権	2,402	1,279	△1,123
棚卸資産	3,145	3,024	△120
その他	205	177	△27
流動資産 計	6,819	6,068	△750
有形固定資産	3,822	3,787	△34
無形固定資産	296	291	△5
投資その他資産	644	759	115
固定資産 計	4,763	4,838	74
資産 合計	11,582	10,906	△675

	前期末	1Q末	増減
仕入債務	205	154	△50
短期借入金	2,061	1,987	△73
長期借入金	1,587	1,392	△194
その他	1,406	1,209	△197
負債 合計	5,259	4,744	△515
資本金&資本剰余金	3,576	3,576	0
利益剰余金	2,877	2,667	△209
その他	△131	△ 82	49
純資産合計	6,322	6,162	△160
負債&純資産合計	11,582	10,906	△675

財務安全性の推移（四半期別）

事業環境リスクを考慮し、十分な手元流動性を確保 自己資本比率は前期末より+1.9pt改善



- FPSC (フリー・ピストン・スターリング・クーラー) 事業については、海外のお客様より医薬輸送用途の追加受注をいただいておりますが、当第1四半期連結累計期間では業績に与える影響は限定的であります。
- 今後も医薬輸送をはじめとした新たな需要拡大に対応するため、引き続き事業推進に向けた活動に注力してまいります。

スターリング冷凍機のコネプト

ノンフロン

高効率

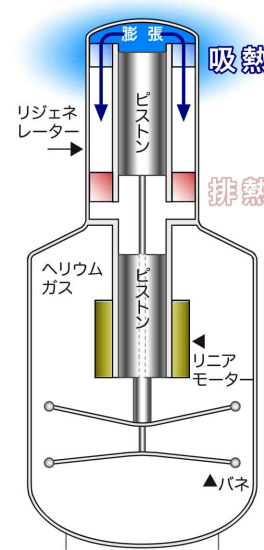
±0.1℃以下

-50℃以下

燕三条

- スターリング冷凍機は冷媒として**自然のヘリウムガス**を使用し、その動作は共振現象を用いた非常に効率的な逆カルノーサイクルに基づいています。
- 当社は**地球温暖化係数ゼロでサステナブルな冷却技術への挑戦**としてスターリング冷凍機を製品化しました。
- コンパクトで車載など持ち運びが簡単、**-50℃以下の精密な温度制御が可能**なスターリング冷凍機は燕三条の職人技のネットワークにより量産に成功しました。

スターリング冷凍機 量産化のポイント



1. 各部品には**μmオーダーの公差**が要求されます。
2. **燕三条の技術ネットワーク**により高精度の**金属深絞り加工技術**の協力を得たことで量産化を加速できました。
 - 高精度加工の実現
 - 加工コストの低減

地上での製造販売の実績、並びに国際宇宙ステーション船内での実用実績から、JAXA 宇宙探査イノベーションハブにおいて、「太陽系フロンティア開拓による人類の生存圏・活動領域拡大に向けたオープンイノベーションハブ」のアイデア型研究として共同研究に取り組んで参りました。現在はこの成果を既存製品へ展開し、製品開発に役立てております。

【研究名称】 高信頼性・小型スターリング冷凍機の開発

【実施期間】 2018年11月26日～ 2020年3月31日

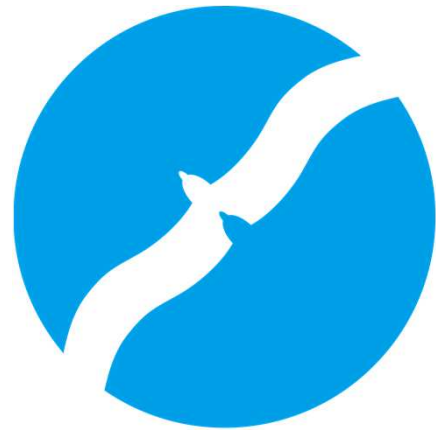
【実施機関】 ・ ツインバード工業株式会社

・ JAXA、ほか

宇宙用途への期待

宇宙誕生当時の情報を有する可能性のある惑星（月など）の氷を凍らせたまま持ち帰るサンプルリターン用途などに応用が期待されています





TWINBIRD